



onivyde®



オニバイド[®]による治療を はじめる方へ

オニバイド[®]は、「イリノテカン」という抗がん剤をリポソーム（脂質の膜のようなもの）で包み込んだ、膵がんのお薬です（くわしくは、P.6）。

この冊子は、オニバイド[®]による膵がん治療をはじめる方を対象として、オニバイド[®]の作用、投与スケジュール、治療中に気をつけていただきたいことや、特に注意していただきたい副作用などをまとめたものです。

治療前や治療中に、この冊子をよく読んでいただき、分からぬことや不安なことがあれば、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

監修

神奈川県立がんセンター 総長

古瀬 純司 先生

目次

■膵がんはどんな病気?	4
■オニバイド®はどんなお薬?	6
■オニバイド®による治療を受けるのはどんな人?	8
■オニバイド®の投与スケジュール	10
■オニバイド®による治療中に気をつけること	12
■オニバイド®による治療でみられる副作用	13
■特に注意が必要な副作用 骨髄機能抑制	14
■特に注意が必要な副作用 下痢	16
■特に注意が必要な副作用 間質性肺疾患	18
■特に注意が必要な副作用 その他起こりうる重大な副作用	19
■起こることが多い副作用	20
■その他の副作用	21
■治療日誌	22

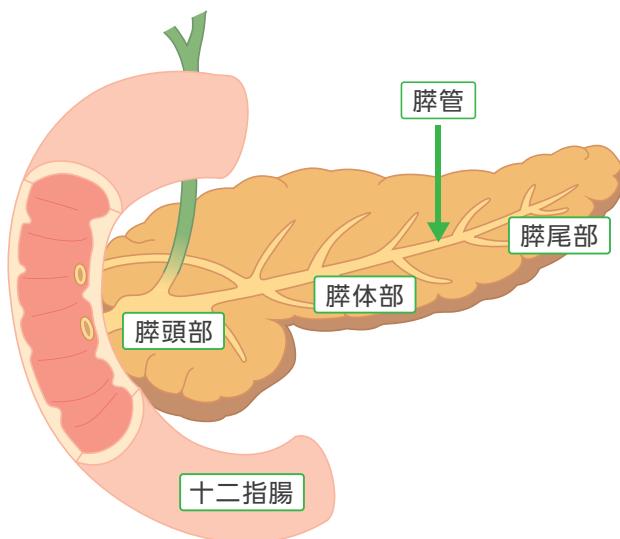
膵がんはどんな病気？



膵臓の位置と働き

- 膵臓は、胃の裏側あたりに位置する細長い形をした臓器です。
- 膵臓には次のような重要な働きがあります。
 - ① 食べ物の消化を助ける消化液である胰液を分泌する「外分泌機能」
 - ② 血糖値の調整を行うインスリンなどのホルモンを血液中に分泌し、身体のバランスを調整する「内分泌機能」
- 膵臓は3つの部分に分けられ、膵頭部(すいとうぶ)、膵体部(すいたいぶ)、膵尾部(すいびぶ)といいます。膵臓内には、膵管(すいかん)という細長い管が網の目のように走っています。膵臓の細胞で作られた胰液が膵管を通って十二指腸へ流れ出ます。

膵臓





脾がんの特徴

- 脾がんの多くは脾管に発生します。通常、脾がんといえば、脾管がん（脾管にできたがん）を指します。
- 脾がんは、60歳ごろから増えはじめ、高齢になるほど多くなる傾向があります。男女差はそれ程ありません。
- 主な症状として、痛み（腹痛、腰や背中の痛み）、食欲不振、腹部膨満感、黄疸（おうだん）などがあらわれます。糖尿病が新たに発症したり、悪化することもあります。脾がんに特有の症状は少ないため、早期発見が難しいといわれています。



脾がんの化学療法

- 化学療法は、抗がん剤を用いた治療法です。がん細胞の増殖を抑え、がんの進行、再発、転移を防ぐことが期待されます。
- 化学療法は、身体の広い範囲に治療の効果が及ぶので、手術ができる場合や他の臓器に転移、再発した場合にも行われます。治療の目的として、生存期間を延長したり症状を和らげたりする効果を期待して行います。

オニバイド®はどんなお薬？



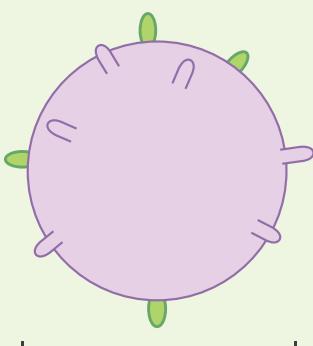
オニバイド®は、肺がんのお薬であり、リポソーム製剤です。

オニバイド®は、脂質の膜でできた非常に小さな粒子(リポソーム)のなかに有効成分のイリノテカン塩酸塩水和物(以下、イリノテカン)が包み込まれたリポソーム製剤というお薬です。

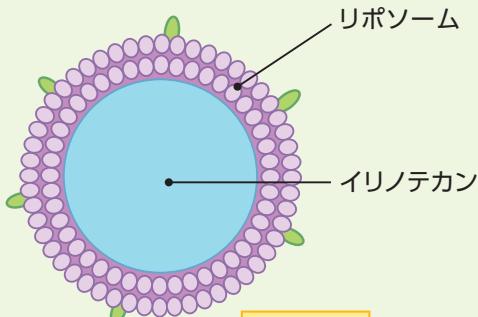
抗がん剤の多くは、がん組織だけではなく、正常な細胞に対しても作用するため、副作用を引き起こします。

オニバイド®は、イリノテカンをリポソームで包み込むことで、より多くのイリノテカンを効率的にがん組織に届けることを期待して設計された抗がん剤です。

オニバイド®



直径:約110nm



断面図

オニバイド®の作用機序(イメージ)

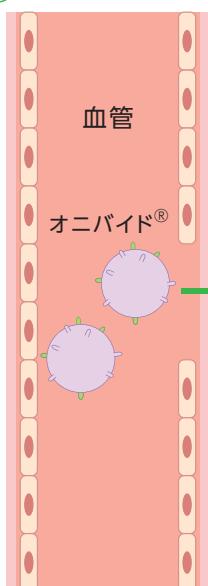
①血中での安定性

オニバイド®は、血液中で分解されにくく、がん組織まで運ばれます。

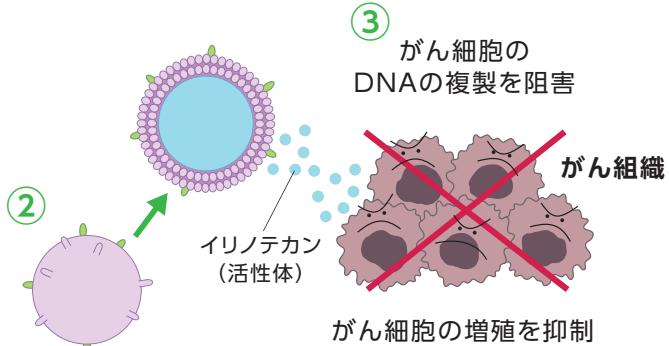
②がん組織への集積

オニバイド®は、正常な組織よりもがん組織の血管から流出しやすく、がん組織に集積すると考えられます。

①



②



③

がん細胞の
DNAの複製を阻害

③がん組織でのイリノテカン(活性体)の放出

オニバイド®から徐々にイリノテカン(活性体)が放出されます。

イリノテカンは、がん細胞の遺伝子(DNA)の複製を阻害して、がん細胞の増殖を抑えたり、死滅させたりする働きがあります。

オニバイド[®]による治療を受けるのはどんな人？



対象は、がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な
膵がん患者さんです。

オニバイド[®]は、膵がん患者さんのうち、手術によるがんの切除が難しい方で、化学療法を受けたことがある患者さんに用いられる抗がん剤です。



次のことにあてはまる方は、オニバイド[®]による治療を受けられません。

●オニバイド[®]による治療を受けられない方

- オニバイド[®]の成分(イリノテカンなど)に対して、過敏症を起こしたことがある方
- 血液細胞をつくる機能が低下し、白血球・赤血球・血小板が減少した状態の方
- 感染症を合併している方
- 重度の下痢のある方
- 腸管麻痺、腸閉塞のある方(腸がスムーズに動かず、腸管の内容物が腸管内に停滞する)
- 間質性肺疾患または肺線維症の方
- 多量の腹水、胸水のある方
- 黄疸のある方
- アタザナビル(HIV-1感染症のお薬)を投与中の方



次のことにおける方は、あらかじめ医師にご相談ください。
(治療が受けられない場合もあります。)

● オニバイド[®]による治療前にご相談いただきたい、
合併症・既往歴や患者さんの状況

- 遺伝的に、イリノテカンの副作用が出やすいタイプの方
(薬物代謝酵素の遺伝子多型*)
- 体質性黄疸(Gilbert症候群など)の方
- 腎障害のある方
- 肝障害のある方
- 妊婦または授乳中の方

● 現在、ご使用中のお薬や健康食品やサプリメントがある場合は、薬局などで買ったものも含めて、すべて医師にお知らせください。

● 以前に、お薬を飲んだり注射を受けて、発疹やかゆみなどが出たことがある方は、あらかじめ医師にお知らせください。

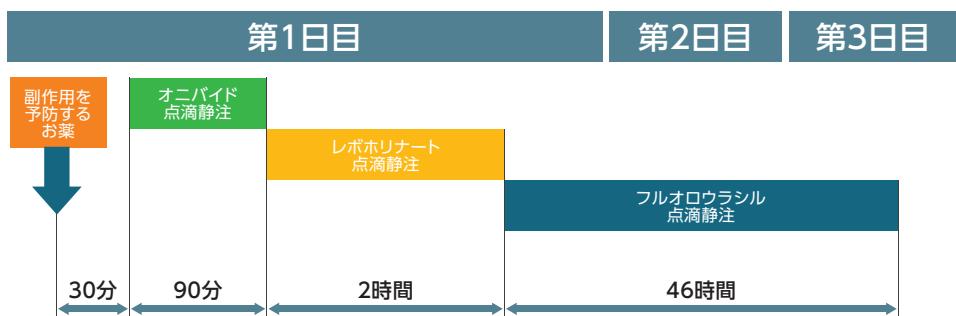
*UGT(グルクロン酸転移酵素:UDP-glucuronosyltransferase)という酵素の遺伝子のタイプによって、副作用が出やすくなることが知られています。UGTは、イリノテカンを体外に排出するため重要な働きをします。検査によって副作用が出やすいタイプであることが分かっている場合は、オニバイド[®]の量を調節して治療を行うことがあります。

オニバイド®の投与スケジュール



オニバイド®は、レボホリナートとフルオロウラシルと併用し、
2週間ごとに治療を繰り返します。

投与スケジュールの例



最初の3日間に点滴投与し、その後お休み(休薬)します。通常はこの3日間の治療を2週間ごとに繰り返します。

- ①オニバイド®の投与開始30分前に副作用(吐き気や嘔吐)を予防するお薬を投与する場合があります。
- ②オニバイド®を90分かけて点滴静注します。
- ③レボホリナートを2時間かけて点滴静注します。
- ④フルオロウラシルを46時間かけて点滴静注します。

患者さんの状態や副作用によって、休薬の期間を延長したり、お薬の量を減らしたりする場合があります。

点滴中または点滴後に、インフュージョンリアクションという副作用があらわれることがあり、注意が必要です(くわしくはP.19を参照ください)。



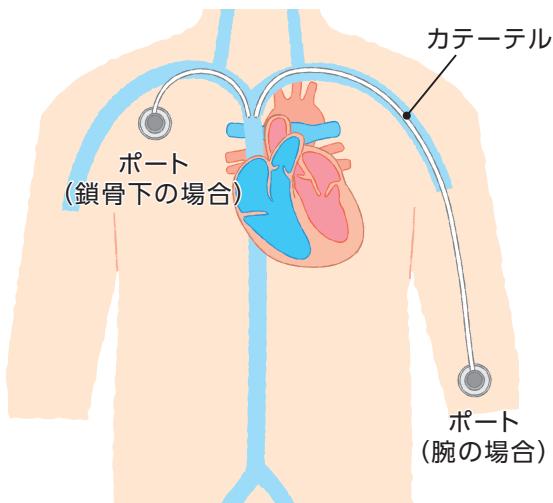
参考

埋め込み型ポートとは

オニバイド®による治療を行うために、あらかじめ心臓の近くの太い静脈に点滴用カテーテル(細い管)を挿入し、ポートと呼ばれる小さな器具に接続して、体内(前胸部など)に留置することができます。

また、携帯型ポンプを用いることで、自宅での点滴が可能となる場合があります。

くわしいことは、医師におたずねください。



オニバイド[®]による治療中に 気をつけること



オニバイド[®]による治療中に注意すべき
お薬の飲み合わせや食事での食べ合わせがあります。

- 副作用が強くあらわれたり、お薬の効果が弱くなる可能性があるため、あらかじめ医師、看護師、薬剤師にご相談いただきたい場合

- 他のお薬を使用するときや他科を受診するとき
- 薬局やドラッグストアなどで市販薬を購入するとき
- 健康食品やサプリメントを使用するとき



オニバイド[®]による治療中は、グレープフルーツジュースやセントジョーンズワート(St. John's Wort, 和名 セイヨウオトギリソウ)を含む食品やサプリメントなどは控えてください。



オニバイド[®]投与中および投与終了後の一定期間は適切に避妊してください。

妊娠する可能性のある女性あるいはパートナーが妊娠する可能性のある男性は、オニバイド[®]の投与中および投与終了後一定期間は適切な避妊を行ってください。

オニバイド[®]による治療で みられる副作用



オニバイド[®]による治療中に、以下のような副作用が
起こることがあります。

オニバイド[®]による治療のときに、特に注意が必要な副作用

- 骨髄機能抑制 (P.14)
- 下痢 (P.16)
- 間質性肺疾患 (P.18)
- その他起こりうる重大な副作用 (P.19)

オニバイド[®]の治療により起こることが多い副作用

- 悪心(吐き気) (P.20)

その他の副作用

- 消化器症状(嘔吐、便秘、腹痛、口内炎) (P.21)
- 味覚異常、食欲減退、体重減少 (P.21)
- 無力症、発熱 (P.21)
- 脱毛症 (P.21)

上記以外にも気になる症状があらわれた場合は、その程度にかかわらず
医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

特に注意が必要な副作用 骨髓機能抑制

副作用のあらわれ方には個人差があり、すべての患者さんに必ず起こるわけ必要に応じて副作用を予防・軽減する対策がとられることもあります。

骨髓機能抑制

オニバイド®による治療により、血液細胞をつくる組織である骨髓の働きが抑制されると、白血球・赤血球・血小板などの血液細胞が減少することがあります。

治療中は、定期的に血液検査を行い、血液細胞の数を確認します。

次のような症状が出た場合は注意が必要です。

骨髓機能抑制

白血球 (好中球)の減少

感染症が起こりやすい(発熱・寒気・身体がだるい)



血小板の減少

出血が起こりやすい
・あざ(点状や斑状の皮下出血)
・鼻血
・歯みがき時の出血など



赤血球の減少

貧血、めまい、息切れ



ではありませんが、注意が必要です。



次のような症状があらわれたら、
すぐに医師、看護師、薬剤師に連絡してください。

- ・発熱(38℃以上)、寒気、のどの痛み、排尿時の痛み
など、感染症の症状があらわれた場合
- ・身に覚えのない出血や血便 など

感染症の予防のためのポイント

- よく手を洗い、こまめにうがいを
しましょう。
 - 歯みがきをして、口の中を清潔に
保ちましょう。
 - 虫歯や抜歯の必要がある場合は、
早めに処置しておきましょう。
 - シャワーなどで、身体を清潔に
保ちましょう。
 - 風邪などの感染症にかかっている
人には、近づかないようにしま
しょう。人ごみはできるだけ避け
ましょう。
- 注)ワクチン(予防接種)を受ける
時期などは、医師にご相談くだ
さい。



特に注意が必要な副作用 下痢

下痢

下痢になると、排便回数の増加と便の変化(軟便・水様便)が起こります。

オニバイド®の投与による下痢の種類は、投与後24時間以内に起こる早発型と、24時間以降に起こる遅発型があります。

特に、抗がん剤治療中で白血球(好中球)が減少しているときは重症化しやすいので注意が必要です。

重度の下痢が続くと、脱水症状になる場合があるため、注意してください。



- 次のような症状があらわれたら、
すぐに医師、看護師、薬剤師に連絡してください。
- ・1日の排便回数が普段より4回以上増加したとき
 - ・水様便(便が固形や泥状でなく、完全に水のようになっている)
 - ・周期的な腹痛



下痢の対処法

- 下痢が続くと、体力が消耗し、倦怠感につながるため、安静にしましょう。
- 水分をこまめに補給しましょう。
- 食事に気をつけましょう(下記参照ください)。
- 腹部や下半身を温かくし、保温を心がけましょう。
- 下痢に対して処方されているお薬をきちんと飲みましょう。
- 肛門のまわりを清潔に保ちましょう。排便後は、温水などで洗浄し、強くこすらず、おさえるように拭きましょう。

温かく、消化吸収がよく、栄養価の高い食事を少量ずつ、数回に分けてとりましょう。

避けたほうがよいもの

- ・ 食物繊維の多い食べ物
- ・ 高脂肪の食べ物・飲み物
- ・ 腸粘膜を刺激する香辛料
- ・ コーヒーなどのカフェインの多い飲み物
- ・ アルコール類
- ・ 冷たいもの など



特に注意が必要な副作用 間質性肺疾患

間質性肺疾患

間質性肺疾患と呼ばれる呼吸器系の障害が起こる可能性があります。

症状が急激に悪化することがあり、早期発見・早期対処が重要となります。



次のような症状があらわれたら、病院に連絡して、
すぐに医師の診察を受けてください。

- から咳(痰のない咳)が出る
- 軽い動作や運動時の息切れ
- 発熱
- 胸の苦しさ



特に注意が必要な副作用 その他起こりうる重大な副作用

その他起こりうる重大な副作用

次のような副作用が起こるのはまれですが、起こると症状が重くなるので、気づいたらすぐに医師、看護師、薬剤師に連絡してください。

- **感染症**: 発熱、寒気、身体がだるい
- **肝機能障害、黄疸**: 皮膚や目の白い部分が黄色くなる
- **インフュージョンリアクション***: 息苦しさ、皮膚のかゆみ、じんましん、まぶた・唇・舌の腫れ、のどのかゆみ、意識の低下・消失、動悸
※点滴中や点滴後にあらわれることがある、アナフィラキシー、発疹、じんましん、過敏症などを含む症状
- **血栓塞栓症**: 足のむくみ、腫れ、痛み(特に左右差がある)、しゃべりにくい、手足のまひやしびれ、胸の痛み、呼吸困難
- **腸炎、腸閉塞、消化管出血**: 発熱、お腹がはる、腹痛、血を吐く、血便、吐き気、嘔吐、著しい便秘
- **播種性血管内凝固**: めまい、頭痛、息切れ、動悸、出血(鼻血、歯ぐきの出血、あざ)
- **急性腎障害**: 尿の量が少なくなる
- **心筋梗塞・狭心症**: 胸が締め付けられるような痛み
- **心室性期外収縮**: 不整脈、脈が飛び

起こることが多い副作用

悪心（吐き気）

治療を開始すると、吐き気が起こることがあります。

オニバイド®投与前には、吐き気や嘔吐を予防するお薬を投与する場合があります。

吐き気のために、食欲がなく水分もとれないときは、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

吐き気の対処法

- 身体を締め付けない、ゆったりとした服装をしましょう。
- 部屋の空気を入れ替えて、においがこもらないようにしましょう。
- 口の中を清潔に保ちましょう。
- 脂っこいものを控えて、消化吸収がよいものを食べましょう。
- 少量ずつ、数回に分けて食べましょう。
- 自分好みの味付けや温度の食べ物をみつけましょう。
 - ・刺激やにおいの少ないものを選ぶ。
 - ・食べ物のにおいが気になるときは、冷やしたり室温にしたりする。
- 自分の食べやすいものをみつけましょう（冷たいもの、あっさりとしたもの、口当たりのよいもの、飲み込みやすいもの）。
- 食欲がないときは、「食べられるもの」を「食べられるとき」に食べましょう。
- 食べられないときでも、水分をとって脱水症状にならないように注意しましょう。

その他の副作用

その他の副作用

次のような副作用が起こることがあります。

- **消化器症状(嘔吐、便秘、腹痛、口内炎)**:治療を開始すると、下痢(P.16-17)や恶心(吐き気、P.20)のほかに、嘔吐、便秘、腹痛、口内炎などの消化器症状が起こることがあります。口内炎がひどくなると、食事や会話などがしにくくなり、日常生活に影響をおよぼすことがあります。重症化させないように口腔ケアを十分心がけることが大切です。
- **味覚異常、食欲減退、体重減少**:食べ物の味の感じ方に変化があらわれることがあります。消化器症状や味覚異常などによって、食欲や食事の量が減り、栄養が不足することもあります。体重減少がみられることもあります。
- **無力症、発熱**:だるい、元氣がない、熱っぽいといった症状があらわれることがあります。無理をせずにからだを休め、体力を温存しましょう。発熱は、感染症や間質性肺疾患などの症状である可能性があるため、注意が必要です(P.15、18、19)。
- **脱毛症**:髪の毛やからだの毛が抜けることがあります。多くの場合は、薬の投与を止めると再び生えてきます。

治療日誌

治療中は、抗がん剤の副作用がつらかったり、不安を感じることもあると思います。疑問や不安があるときは、医師、看護師、薬剤師と相談しながら、よりよい治療を続けてください。

(記入例)

日付	7/1	7/2	7/3
体温	36.7 ℃	36.6 ℃	37.2 ℃
息苦しい・胸の痛み	有・無	有・無	有・無
食事量 (○通常、○やや少ない、△少ない、×食べられない)	○	△	△
消化器の症状	吐き気	有・無	有・無
	排便回数	1 回	2 回
	便の状態 (○固形便、△軟便、×水様便)	○	△
	腹痛	有・無	有・無
出血やあざ		有・無	有・無
その他 気になる症状		疲れやすい	少し熱がある

排便回数は
数字を記入します。

気になることや、
医師に伝えたい
ことを書いて
おきます。



治療日誌

日付	/	/	/	/	/	/	
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
息苦しい・胸の痛み	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
食事量 〔 ○通常、○やや少ない、△少ない、×食べられない〕							
消化器の症状	吐き気	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
	排便回数	回	回	回	回	回	回
	便の状態 〔 ○固形便、△軟便、×水様便〕						
	腹痛	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
出血やあざ	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
その他 気になる症状							



/	/	/	/	/	/	/	/
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
有・無							
有・無							
回	回	回	回	回	回	回	回
有・無							
有・無							

治療日誌

日付	/	/	/	/	/	/	
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
息苦しい・胸の痛み	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
食事量 〔 ○通常、○やや少ない、△少ない、×食べられない〕							
消化器の症状	吐き気	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
	排便回数	回	回	回	回	回	回
	便の状態 〔 ○固形便、△軟便、×水様便〕						
	腹痛	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
出血やあざ	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
その他 気になる症状							



/	/	/	/	/	/	/	/
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
有・無							
有・無							
回	回	回	回	回	回	回	回
有・無							
有・無							

治療日誌

日付	/	/	/	/	/	/	
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
息苦しい・胸の痛み	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
食事量 〔 ○通常、○やや少ない、△少ない、×食べられない〕							
消化器の症状	吐き気	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
	排便回数	回	回	回	回	回	回
	便の状態 〔 ○固形便、△軟便、×水様便〕						
	腹痛	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
出血やあざ	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
その他 気になる症状							



/	/	/	/	/	/	/	/
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
有・無							
有・無							
回	回	回	回	回	回	回	回
有・無							
有・無							

治療日誌

日付	/	/	/	/	/	/	
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
息苦しい・胸の痛み	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
食事量 〔 ○通常、○やや少ない、△少ない、×食べられない〕							
消化器の症状	吐き気	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
	排便回数	回	回	回	回	回	回
	便の状態 〔 ○固形便、△軟便、×水様便〕						
	腹痛	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
出血やあざ	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
その他 気になる症状							



/	/	/	/	/	/	/	/
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
有・無							
有・無							
回	回	回	回	回	回	回	回
有・無							
有・無							

治療日誌

日付	/	/	/	/	/	/	
体温	°C	°C	°C	°C	°C	°C	
息苦しい・胸の痛み	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	
食事量 〔 ○通常、○やや少ない、△少ない、×食べられない〕							
消化器の症状	吐き気	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
	排便回数	回	回	回	回	回	回
	便の状態 〔 ○固形便、△軟便、×水様便〕						
	腹痛	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無
出血やあざ	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	
その他 気になる症状							



/	/	/	/	/	/	/	/
℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
有・無							
有・無							
回	回	回	回	回	回	回	回
有・無							
有・無							

MEMO

～病気についてもっと知るために～

「すい臓がんドットコム」のご紹介

すい臓がん専用情報サイト
すい臓がんドットコム

ホーム すい臓がんのこと お問い合わせ ハンズのヒント ご家族の方へ
- 用語集 - Q&A SERVIER
www.servier.jp

正しい情報を知ることが、
病気に「向き合う」力になる。

すい臓がんは、がんの中でも手ごわい病気です。しかし、新しい治療法が開発されており、
病状や病気の経過は人それぞれです。まずは、自分の状況を知り、すい臓がんの治療法や
病気と付き合っていくためのヒントなど、信頼できる情報を集めましょう。
(医学監修 立国立がん研究センター中央病院 真坂 拓志先生)

<https://suizogan.com/>

■緊急時の連絡先

